

第3章

中学校におけるキャリア教育の実践

第1節 中学校におけるキャリア発達

1 各学年におけるキャリア発達のとらえ方

キャリアは段階をおって発達するものである。その段階を踏まえ、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力である基礎的・汎用的能力の育成について、体系的に各学校段階の取組を考えることが重要である。一般的に中学校におけるキャリア発達段階の特質は、現実的探索と暫定的選択の時期であるといわれ、中学校段階でのキャリア教育の目標でもある。それぞれの学校・地域等の実状や、各校の児童生徒の実態を踏まえ、学校ごとに育成しようとする力の目標を定めることを前提として、各学年段階でどのような能力や態度を、どのような学習や活動で身に付けさせるかを考えることが重要である。

中学校におけるキャリア発達段階と特徴

各中学校においては、校区内の小学校におけるキャリア教育の取組を踏まえつつ、生徒たちの実態に即したキャリア教育を実践する必要がある。その際、中学校における一般的なキャリア発達段階の特徴を理解しておくことは極めて重要である。そのための資料として、ここで第1章第1節(p.26)に示した表を再掲する。それぞれの学校で各学年のキャリア発達を踏まえた実践に取り組む際の参考にしてほしい。実際には、それぞれの学校・学年の目標や課題を踏まえた取組が不可欠となるが、それらを教職員が確認し、どのようなねらいの下でどのような取組をするかを考えることそのものが重要である。このようなことからキャリア教育は、「学校教育を見直していくための理念と方向性を示す教育」と言われている。

中学校段階でのキャリア発達課題		
<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア発達段階 ⇒現実的探索と暫定的選択の時期 ○キャリア発達課題 <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索 		
各学年におけるキャリア発達課題の例		
1年生	2年生	3年生
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さや個性が分かる。 ・自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする。 ・集団の一員としての役割を理解し果たそうとする。 ・将来に対する漠然とした夢やあこがれを抱く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する。 ・社会の一員としての自覚が芽生えるとともに社会や大人を客観的にとらえる。 ・将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。 ・社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 ・将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう。

文部科学省『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引』平成18年11月をもとに作成

キャリア発達について理解しておくべき視点

- ◆平成11年12月中央教育審議会答申に「キャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある。」と示されて以来、各小学校でもキャリア教育を推進している。中学校にあっては、校区内の小学校の取組を把握し、その実践を踏まえて、系統的な指導を行えるよう配慮する必要がある。
- ◆中学校の時期は、人間関係も広がり、社会の一員としての自分の役割や責任の自覚が芽生えてくる時期である。また、様々な葛藤や経験の中で、自分の生き方を模索し、夢や理想をもつ時期でもある。一方で、現実的に進路の選択を迫られ、自分の意思と責任で決定しなければならない時期でもある。

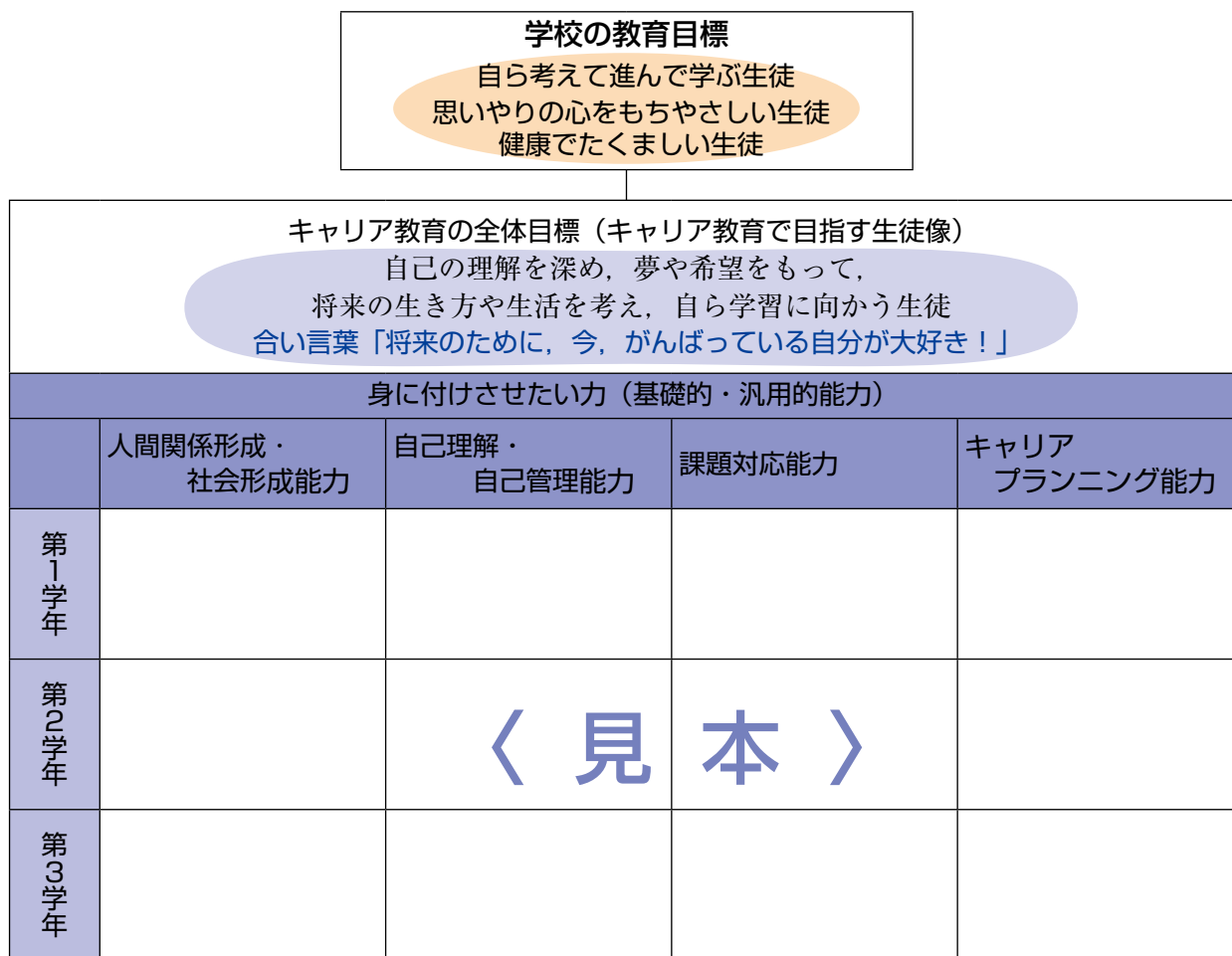
これらを踏まえて、社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかり考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度の育成等について、体験を通じて理解を深めさせることが求められる。そして、進路の選択・決定へと導くことが重要であることから、生徒の発達の段階を踏まえて学習活動を展開する必要がある。
- ◆職場体験活動は、ほぼすべての公立中学校で実施されており、仕事を窓口にして実社会の現実に向ける良い機会になっている。活動の効果をより引き出すためには、事前指導や事後指導の在り方が、重要であることは言うまでもない。体験の直前、直後の指導だけではなく、中学校の入学時から卒業時までの長い期間の中で、生徒のキャリア発達に応じた指導を展開することが大切である。
- ◆このような視点で、各中学校で設定した発達課題(各学年段階で育成しようとする能力や態度)を目標にして、指導していくことになるが、キャリアに関する発達は個人差が大きいことに配慮する必要がある。したがって、各学校の一般的な発達課題を目標にして指導計画を作成し活動を展開しながら、生徒個々人の発達に対応するための指導を充実させる必要がある。

2 各学校におけるキャリア発達課題の具体的なとらえ方

各学校でキャリア発達課題を設定する際に大切なことは、次に挙げる点に配慮することにより生徒や地域の実態に応じることである。

- ① 前年度の学校評価の結果や生徒の各活動における自己評価表などを参考にして、生徒の実態を多面的に分析し整理する。
- ② 目指す生徒像や、社会で求められる人間像と比較しながら、自校の生徒の特徴や課題を分析するなどして、そこから発達課題を考える。
- ③ 中心となる教職員が、生徒や地域の実態を踏まえ、3年間を見通したキャリア教育における発達課題(案)を作成する。それをもとにして、教職員全体や学年ごとに、妥当性を検討するなどして、全校体制で共通理解を図るとともに、キャリア教育の推進について参画意識をもてるようにする。

中学校におけるキャリア発達のとらえ方の一例



課題と実践のポイント

- ・キャリア教育においては、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要となる能力や態度を育てることが求められることから「〇〇ができる」「〇〇しようとする」「〇〇がわかる」などのような文末表現にすると良い。
- ・できるだけ簡潔で具体的な表現にする。また、それぞれの内容について評価のポイントを考慮しておくことが望まれる。
- ・キャリア教育を通して身に付けさせたい力の系統性が分かるように、1年生から3年生までの全体を見通せるように配慮する。



○**道徳編**

道徳性の発達の出発点は、自分自身であり、自己を大切にすることである。しかし中学生は、身体的にも大きな変化を経験し、その自己像は大きく揺れ動く。それまで、程度の差はあるものの周囲の期待にそって「良い子」として振る舞ってきた子どもたちも、中学生のころから、様々な葛藤^{かつとう}や経験の中で、自分を見つめ、自分の生き方を模索するようになる。感情や衝動の赴くままに行動し、自分の弱さに自己嫌悪を感じることもあるであろうし、逆に、理想や本来の自分の姿を追い求め、大きく前進しようとすることもある。中学生は、そのような大きく、激しい心の揺れを経験しながら、自己を確立していく大切な時期にある。一人一人の生徒の姿を、表面的な言動だけで決め付けることなく、自己確立へ向けての模索の姿として、広い視野で見守ることが大切である。

このような中学生の自己探求の過程において大きな役割を果たすのは、かれらの夢や理想である。中学生の時期にどのような夢を膨らませ、どのような理想を描くかということが、その後の人生に大きな意味をもつことを理解し、生徒一人一人が自分の夢や理想をしっかりと見つめ、その実現に近づけるように励ますことが大切となる。

○**総合的な学習の時間編**

「職業や自己の将来に関する学習」とは、成長とともに大人に近づいていることを実感すること、自らの将来を展望すること、実社会に出て働くことの意味を考えること、どんな職業があるのかを知り、どんな職業に就きたいのか、そのためにはどうすればよいのかを考えることなどである。このように、職業や自己の将来に関する学習を行うことは、中学生にとって、とても関心の高いことであり、中学生の発達にふさわしいものである。

中学生は、未熟ながらも大人に近い心身の力をもつようになる。大人の社会とかわる中で、大人もそれぞれ自分の世界をもちつつ、社会で責任を果たしていることに気付いていく。また、義務教育修了段階において、進路選択を迫られる場面にも出会う。こうした時期に、働くことや職業を自分とのかかわりで考えることや、自己の将来を展望しようとすることは、自己の生き方を考えることに直接つながる重要な学習である。

○**特別活動編**

中学生の時期は、親への依存から離れ、自らの行動は自ら選択決定したいという独立や自律の要求を高めていく。同時に、自分の将来における生き方や進路を模索し始める。また、様々な人々の生き方にも触れて、人間がいかに在るべきか、いかに生きるべきかについても、考え始めるようになる。しかし、一般的に言って、生徒には経験や情報が不足していたり、また自分の将来を考えるための思考力の発達などもまだ十分でないため、適切に対処することが困難であることが少なくない。したがって、教師はこのような問題に生徒が積極的に取り組み、適切な解決策を見いだしていけるように、特別活動の各内容、特に学級活動の時間を計画的に活用して、指導・援助を行う必要がある。その際特に、自己の判断力や価値観を養い、主体的に物事を選択決定し、責任ある行動をすることができるよう、人間としての生き方についての自覚を深めさせ、集団や社会の中で自己を生かす能力を養わせていくことが大切である。また、生徒が社会の一員としての望ましい在り方を身に付け、健全な生活態度や人生及び社会について主体的に考えていくよう、教師は忍耐強く指導・援助することが必要である。